

山行報告

武川岳清掃登山(12月6日)

参加者 会員(障害者7名、健常者15名)
会員外(障害者1名、健常者1名)

昨夜の大雨がうそのように、今日はスッキリと晴れ、すばらしい天気恵まれた。

横瀬の駅でタクシーに分乗し、一の鳥居に向かう。秩父盆地は、昨夜の雨の影響もあってか、深い霧に沈んでいた。しかし、上空は真っ青な空がのぞいている。武甲山も霧の切れ間からよく見えていた。

一の鳥居に着き、自己紹介のあと、妻坂峠に向けて登る。最初は緩やかだった登山道も、車道を横切るあたりから次第に急になってきた。紅葉もすでに終わり、葉を落としている木々が多い。傾斜がやや緩やかになり、トラバース気味に登っていくと、武甲山がよく見えるようになってきた。こちらから見ると、奥武蔵の盟主らしい貫禄を持って、どっしりと聳えている。秩父と名郷を結ぶ妻坂峠に着き、ひと休みする。木漏れ日が差し込み、気持ちがいい。しかし、足元を見ると、かなり昔に捨てられたような瓶や缶が散らばっている。ゴミ拾い隊(全員なんです)の方に活躍していただき、全てのゴミは無理だが、できる範囲で拾っていただいた。

妻坂峠を過ぎると、急登が待っていた。山頂手前の平坦地までぐんぐん登っていく。Mさん

は、お父さんと力を合わせて登っていく。K君やTさんもぐんぐん登っていく。武甲山の山頂と標高がかなり近づいてきた。葉を落とした木の向こうに、真っ白になった浅間山が遠くに見えていた。



武川岳山頂にて

傾斜が落ち、木漏れ日に包まれた登山道を気持ちよく歩いていくと、武川岳の山頂に到着した。予定より40分ほど早いですが、下りのことを考えると、ちょうど良い時間だった。山頂からは、奥多摩方面の展望もある。日だまりを背にしていると、少し暑いくらいで、風もなく最高の天気だ。



山頂で集合写真を撮り、予定より40分早く

出発する。出発の時、小6のJちゃんにサポートしてみないか聞いてみたら、やってみるとのこと。サポート初体験は、Fさんのサポートをお願いした。少し急なところは無理だと思ったので、交替した方がよいと言ったのだが、他の方たちが見守ってくださり、少し急なところもサポートしていた。



前を歩いていたTさんも、Aさんのサポートをしてみる。Tさんは、2回目の体験だが、危なげなく順調にサポートしていた。

頼もしい若者たちのがんばりで、順調に下っていく。前武川岳も過ぎ、右手に網の張られた急な登山道も、TさんはFさんのサポートをしていた。天狗岩に着き、ここから先は、危険な場所なので、力強い男性陣にサポートを代わっていただく。どこが天狗岩なんだという声があったが、下って行くにつれてその大きさが分かり、Mさんは、天狗岩から岩へと飛び移るよ

丹沢三峰(12月12日～13日)

参加者 会員(障害者3名、健常者7名)

12月12日

今朝方まで降っていた雨が止み、曇り空の間から青空がのぞくようになってきた。三叉路でバスを降り、登山口に行こうとするが、昭文社の地図(2008年版)とバス停の位置が違って、少し戸惑った。バス停は、三叉路の手

うな大きな岩場なので、天狗岩というのだなと言っていた。

無事に天狗岩を通過し、なおも続く急な道を下っていくと、真っ赤に紅葉したもみじが見えてきた。今日一番の美しいモミジを楽しみながら進むと車道に飛び出した。車道に下る階段が、かなり厳しく、もし踏み外すと3mくらい下の道路に落ちてしまうため、慎重に下っていく。車道に出ると、あとはバス停に向けて足早に歩を進める。予定のバスは乗れなかったが、30分後にバスがあり、それに乗って飯能に向かった。

今日は、聴覚障害のHさんが参加して下さり、行き電車で、手話を少し勉強してきた。また、子ども山登り教室以外で登山に初めての参加となる、K君も楽しかったと言ってくれました。そして、TさんとJちゃんのサポート体験など、盛りだくさんの収穫があった登山でした。そういえば、ごみ拾い大賞は、Yさんだったでしょうか？ いろいろあって、ごみ拾いがどこかに行ってしまいました。

コースタイム

一の鳥居(9:50)...妻坂峠(10:50-11:00)...武川岳(11:40-12:20)...天狗岩(13:40-13:50)...名郷(15:30)

前のため、バスの進行方向に少し進んで、70号線を歩く。登山口で自己紹介をして、登りはじめる。

今日は、冬とは思えないくらい暖かい。歩きはじめて30分ほどで、衣類調整の要望があり、立ち休憩とする。昨夜の雨で、葉を落とした木の枝には、水滴が無数に付き、きらきら光って美しい。夏はヒルの天国となるこの付近も、今はさすがにヒルはいない。御殿森の頭を過ぎ、高畑山に登る。山頂にある展望台に登るが、周

囲の木々よりもかなり低く、特に見晴がよいわけではない。それでも、仏果山や経ヶ岳、これから登る本間の頭などが見える。

ここから、いよいよ難所の金冷やしへと向かう。北側の山腹をトラバースするところから、栈道が現れ始めた。慎重にサポートしながら進む。尾根を南側から巻くようになると、岩場も現れ始めた。足を踏み外さないように、慎重にサポートしていくと、金冷やしの看板が現れた。しかし、一番厳しい箇所は、この先にあった。両側が切り立ち、痩せたコルの向こう側に、非常に滑りやすそうな大きな岩があり、そこからすぐに栈道になっている。掴まるためのロープが固定されているが、栈道も含めて、右側に落ちたら助からない可能性が高いので、ロープで確保することにする。8の字結びを3つ作って、視覚障害者の人をサンドイッチする形になるように3人で順に登ってもらう。ひやっとする場面もあったが、何とか全員、無事に通過する。

ここを過ぎると、それほど危険なところはなくなる。松小屋の頭付近は、山腹の南側をトラバースするが、そろそろ「腹が減った～」という声が聞こえてきた。もう少し行ってよいところで、お昼にしようということにしたが、あまりよい場所がなく、小さな尾根を回り込むところでお昼タイムにした。

腹ごしらえをして出発すると、すぐに平坦なところがあったが、もう過ぎてしまったことなので、仕方ないですね。

とにかく、ここからは体力勝負だ。がんばって登っていると、どこかで見た人が道を譲ってくれる。なんと、Mさんではないか。話を聞くと、今日一日しか休みがないため、今回は参加できなかったのだが、その一日を使って塩水橋に車を置いて、丹沢山に登ってきたそうだ。しかも、丹沢山頂のみやま山荘に、私たちへの差し入れとして、水と食料を預けてたということだ。Mさんの体力におどろくと共に、感謝の気持ちでいっぱいです。本当に、山仲間アルプは

すばらしい会員に恵まれているなあと、心から思います。

しかし、このルートはとにかく静かだ。Mさんを含めて、下ってくる人4人しか会わなかった。体力的にきついコースなので、登る人が少ないのだろう。静かな山を満喫する。

今日一番の登りでは、足が攀る人や遅れる人がでてきたが、荷物を分担して協力しあい、何とかがんばって、三峰の最初のピーク、本間の頭に到着した。計画の時間より30分ほど遅れているが、ここまで来れば、あとは急な登りはないので、時間的な目処が付く。山頂から行く手を見ると、木々の間から丹沢山が見えた。さー、がんばって行きましょう。



本間の頭からの下りでは、一箇所梯子があり、そこを過ぎたところに岩稜的なところがあるが、金冷やしに比べるとずっと楽なので、問題なく通過する。今日は、天気がよいものの、雲が低く、遠くには雲海も見える。雲がよいアクセントになって、いろいろな光景が見られた。雲に当たったスポットライトのような光が、手前の木を幻想的に浮き上がらせたり、木の間から差し込んだ光が、光の帯となって放射状に伸びたり、光の芸術を楽しむことができた。

左手には、大山と大山三峰が見え、右手には雲海の上に、黍殻山方面の尾根が見えていた。円山木の頭、太礼の頭と順調に通過していく。時折、雲の中に入り、霧に巻かれるようになってきた。心配した時間も、ほぼ予定どおり進んでいる。瀬戸沢の頭から緩やかな登りが続く。

周囲のブナもすばらしい。

もうそろそろ山頂に着くという頃、木々の向こうにシルエットの富士山が見えた。天王寺尾根への分岐を過ぎると、みやま山荘の窓明かりが見えた。丹沢山の山頂に着くと、富士山がシルエットとなって佇んでいた。愛鷹山方面だろうか、空がまだ茜色で美しい。暗くなる前に着き、ホッとすると共に、すばらしい光景に出迎えてもらえて感激だった。私にとって、この山頂は、山を始めて最初に登った山なので、実に32年ぶりだ。当時は木が鬱蒼と茂っていて、こんなに展望はなかったと思うのだが、こんなに変わってしまったのだろうか？

小屋に入ってくつろぎ、他の登山者の人たちとも、いろいろ話をする事ができた。おいしい夕食を食べたあと、外に出ると、カシオペアなどがよく見えた。オリオン座は、東の空に低く見え、その上に牡牛座とスバルが見えていた。

12月13日

今日は、昨日よりも天気がよい予報だったが、残念ながらどんよりと雲って御来光は見えなかった。残念ながら富士山も見えない。6時半の朝食をいただき、7時少し過ぎに山頂を後にする。南には、これから行く塔ノ岳がよく見えていた。



丹沢山山頂にて

丹沢の主脈は気持ちのよい尾根だ。凍り付いているところもなく、順調に進む。昨晚、話をした女性二人が追い抜いていった。龍ヶ馬場には、ベンチがあり、塔ノ岳方面がよく見える。

ただ、鹿除けの柵が痛々しく感じる。時折、日が当たり、青空も見えるようになったが、スッキリと晴れる感じはない。それでも、これから向かう鍋割山方面がよく見えていた。最後の階段をがんばって登ると、塔ノ岳に到着した。早速、雄シカが2頭、迎えてくれた。



塔ノ岳山頂にて

塔ノ岳の山頂も、残念ながら展望はなかった。寒い山頂を後に、鍋割山に向かう。ここからは、鍋割山でリーダー経験のあるNさんに、先頭をお願いする。金冷やしのところ、真っ直ぐ進みそうになったが、すぐに軌道修正して、鍋割山稜に入る。大丸で防寒着を脱ぎ衣類調整をしていると、雌ジカが3頭、近くで何かを食べていた。

鍋割山荘に着くと、全員、鍋焼きうどんを注文する。暖かな小屋はありがたい。小屋の前で集合写真を撮り、下山にかかる。山頂からは、真鶴岬や初島、そして伊豆半島方面が見えた。箱根の二子山も見えていた。

後沢乗越への道は、これまでと違って、急に登山者が増える。道を通ったり譲られたりしながら、急な尾根を下っていく。後沢乗越は、痩せた尾根のため、広くはないが、少しだけ休憩を取る。ここからジグザグに下っていく。次第に沢の音が近づき、林道に近いことを知る。

沢に一旦降りてから、林道をさらに進む。二俣で、昼食タイムとするが、先程の鍋焼きうどんはおやつだったのだろうか？ みんな、持ってきたものをしっかりと食べている。

あとは、長い林道をぐんぐん下って、大倉の

バス停に着く。予定のバスより、1本遅れたが、女性陣はしっかりと野菜を買い込んで、バスに乗った。長い道のり、お疲れさまでした。

コースタイム

12/12 三叉路バス停(8:45) ... 御殿森の頭(9:45-9:50) ... 高畑山(10:35-10:45) ... 1,047mピーク(13:15-13:25)...本間の頭

高尾山(12月20日)忘年山行

参加者 会員(障害者7名、健常者19名)
会員外(健常者6名)

今日は、今年1年を締めくくる忘年山行だ。できるだけ誰もが参加できるようにと、今年は高尾山で実施した。

ミシュランの三つ星に選定されてから、訪れる人が爆発的に増えた高尾山だが、さすがに寒さと、出発がゆっくりだったことで、それほどの混雑ではなくて助かった。しかも、登り口を大垂水峠にしたことで、一丁平まではとても静かな山道を楽しめた。

参加人数が32人だったため、大垂水峠はメンバーであふれかえったが、自己紹介のあと、道路を渡って、登りはじめた。緩やかな登山道は風もなく、日が当たって気持ちがいい。

そのまま高尾山に登る道と、一丁平に登る道が分かれるところで、小休止をして、上着を脱ぐ。ここからは、一丁平への登りを選ぶ。少し急な登りとなるが、傾斜が落ちてくると、左手に富士山が見え始める。右手にベンチなどが見え始めると、一丁平はすぐそこだった。テラス

(14:30-14:40) ... 円山木の頭(15:20-15:25)...太礼の頭(15:50-16:00) ...丹沢山(16:50)

12/13 丹沢山(7:10)...塔ノ岳(8:30-8:40)...鍋割山(10:00-10:45) ... 後沢乗越(11:45-11:55)...二俣(12:45-13:05)...大倉(14:20)

のようになっていて、富士山をはじめ、丹沢の山々が間近に見える。先週登った丹沢山と三峰もよく見える。富士山の右手には、三ツ峠も見えていた。今年の秋から冬にかけては、天気に恵まれ、富士山を何回見ることができただろうか？



大垂水峠から見た富士山

一丁平で昼食とする。富士山を眺めながらの昼食は、ひときわおいしく感じる。食後は、恒例の最多参加賞などの表彰を行う。今年は、Mさんが年間27回で健常者部門の最多参加だった。障害者部門は、Fさんの24回、新人賞は、Sさん親子の8回。参加回数が9回だったが、最高齢でこれだけ参加していただけたEさんは、特別賞とさせていただいた。10回以上の方が26人、20回以上の方も6人いた。(どちらも最多参加の方を含めて)全体の参加人数も、過去最高となり、多くのみなさまから支えられて山仲間アルプがあることを実感しました。

みんなで集合写真を撮ったあとは、高尾山に

向けて下っていく。間違っ城山方面に行きそうになったが、Aさんに指摘していただき、回れ右をして高尾山に向かった。



この道はとにかくよく整備されていて歩きやすい。途中で、シモバシラを何年ぶりかで見ることができた。シモバシラは、シソ科でシモバシラを作るため、この名前がある。他にもシモバシラを作る植物は、シソ科(アキチヨウジやカメバヒキオコシ)やキク科(シロヨメナなど)にあるようだ。

モミジ台への階段を登り、さらに最後の急な階段を登ると、高尾山の山頂に到着した。富士山に太陽が沈むときにできるダイヤモンド富

霧ヶ峰(12月26日～27日)

参加者 会員(障害者4名、健常者9名)

12月26日

今朝方までの雨も上がり、車窓から青空が見られるようになってきた。甲斐駒や八ヶ岳を見ながら、各駅停車で上諏訪まで行く。上諏訪で昼食を食べ、特急組のみなさんと合流する。今回は、兵庫県からYさんも来てくださった。

強清水でバスを降りると、まだ雲は多いものの、青空が広がっている。スキー場に流れる「神田川」を聞きながら、車道を歩く。山頂に気象庁のレーダーのある車山がよく見えていた。道

士を撮るために、三脚を構えたカメラマンが大勢、その時を待っていた。

山頂からは、稲荷山コースを下る。みんな順調に下っている。今回山が初めての、NちゃんとYちゃんは、後にいたKさんと駄洒落を連発して楽しんでいる。稲荷山からは、東京方面がよく見える。筑波山も見えているとAさんが言っていたが、はっきり見ることはできなかった。稲荷山から、さらに笑いの絶えない会話を楽しみながら下っていくと、ケーブルの清滝駅に到着した。取りあえず、ここで解散として、忘年会参加メンバーは、高尾駅まで電車で移動し、忘年会だけの参加の人たちと合流し、忘年会を楽しんだ。

今年も1年、事故もなく、無事に全ての計画を楽しめたことを感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

コースタイム

大垂水峠(12:00)...一丁平(12:50-13:40)...高尾山(14:30-14:40)...稲荷山(15:25-15:35)...高尾山ケーブル清滝駅(16:15)

路は、雪がなく舗装道路が出ていたが、北側の斜面になると、一面の雪道となった。観音沢の手前から案内にしたがって、ヒュッテ・ジャベルに向かう。樹林に囲まれた中に静かに佇む趣のあるヒュッテだ。

ヒュッテに入って、不要な荷物を置き、八島ヶ原湿原方面に散策に行く予定で出発した。しかし、蝶々深山の北東側に出るコースを登っていったが、トレースがなく、道のないところを20センチくらいのラッセルをしながら進む。動物たちの足跡がたくさん付いている。キツネの可能性が高そうだ。後に車山を見ながら登っていくと、1,780mのピークに到着した。槍穂高連峰もシルエットとなって見えている。足下には八島ヶ原湿原が雪原となって見えている。



日暮れまでそれほど時間がないので、急いで下山にかかる。ここも、道のないところを下っていく。時々、膝まで潜る時もあるが、がんばって下っていく。もうそろそろ八島ヶ原湿原からヒュッテに向かう道に出てもよいと思うのだが、なかなか出ない。日が暮れる前に、正しい道を見つけたいと思い、急いで下る。ようやく幅の広い林道のようなところに出た。しかし、まだ安心はできない。この道が正しい道なのかどうか確信できないため、速く歩いて地形などから確信を持ちたかった。すでに日は沈んでいるので、急いで探すことにする。林道が左手にカーブしたところで、ヒュッテの電気の明かりが見えた。これで、間違いがなかったことを確信できた。

ヒュッテに着いて入浴をすませ、夕食後は、Mさんのフルートに合わせて歌ったり、他の4人パーティーの人たちと山の歌を歌ったりして、楽しい一時を過ごした。

12月27日

朝は7時に朝食をいただいたあと、準備をして8時半頃出発する。ヒュッテのご主人から、車山は北側から登るよりも、西側にある肩から登った方がよいというアドバイスをいただき、予定を変更して、西側から往復して、そのまま強清水に向かうことにした。

朝日を受けてきらきら光る雪面や枯れ草に付いた霧氷が美しい。雪面には、新しい動物の足跡もあった。狸だったかも知れない。今日は、

最高の天気だ。



ふり返ると、北アルプスの槍穂高連峰がくっきりと見えている。手前には鉢伏山、右手には美ヶ原がよく見える。さらに登ると、乗鞍岳が見え、御岳も見えてきた。美ヶ原のすぐ左には鹿島槍も見える。さらに登ると、五竜岳も少しだけ見えてきた。

車山の肩に到着すると、中央アルプスから南アルプスまで見える。南アルプスは、一番右に仙丈岳、その左には、間ノ岳、北岳、甲斐駒ヶ岳、そして鳳凰三山と続く。



ここから、夏道から外れ、山頂に直接向かう踏み後を登る。スノーシューの人、ワカンの人、ツボ足の人とそれぞれだったが、ツボ足はやはり歩きにくい。時々、ズボッと足が潜ってしまう。それでも、みんな順調に登っている。気象庁のレーダーが間近に見えてきた。左手には浅間山が、山頂から噴煙（蒸気）を上げている。傾斜が落ち、山頂の一面になってくると、富士山が見えてきた。そして八ヶ岳がその全貌を見せてくれる。

360度、最高の展望を見せてくれる車山山頂で、少し早い昼食タイムとする。北アルプスから南アルプスまで、そして富士山と八ヶ岳、浅間山、妙高連山まで、中部山岳の山々を恣に眺めながらの昼食は、何の変哲もないパンでもおいしくしてくれる。



御岳を正面に見ながら下山にかかる

車山からは、幅の広い夏道を下る。しかし、こちらの方が雪が深かったように感じた。何度も潜りながら下り、肩でひと休み。ここから車道の上にある林道を歩こうとしたが、トレースがなく、ツボ足組には厳しいため、雪のない車道を歩くことにする。スノーシュー&ワカングループは、そのまま林道を歩く。

夜叉神峠(1月9日)

参加者 会員(障害者3名、健常者7名)

2010年の最初の山行は、南アルプスの玄関口にある夜叉神峠と高谷山だ。夜叉神峠は、白峰三山の展望がすばらしく、新年の幕開けにふさわしいと計画したが、無風快晴という最高の天気恵まれ、まさに新年の幕開けを楽しめた。

青春18切符を使っての各駅停車の旅を楽しみながら山梨県へと入っていく。車窓からは、甲斐駒ヶ岳から赤石岳までの南アルプスの展望が楽しめた。八ヶ岳には少し雲がかかっているが、南アルプス方面は、雲一つない快晴だ。

車道は、遠回りだが、どんどん歩けるため、さすがに早く下れる。穂高連峰や中央アルプス、南アルプス、富士山などを眺めながら、車に注意して思い思いに下る。林道組と合流し、車道を歩いていくと、強清水からのバスが、予定時間のものがなく、50分ほど早いバスがすぐに出るとのことだったので、急いで後に声をかけ、何とか間に合って、全員バスに乗り込むことができた。誰もいない貸切状態のバスに乗って、雪の世界から冬枯れの世界へと戻っていった。

2009年最後の山を無事に終えることができました。みなさまのご協力に感謝いたします。

コースタイム

12/26 強清水(13:40)...ヒュッテ・ジャベル(14:20-15:05)...1,780mピーク...ヒュッテ・ジャベル(16:55)

12/27 ヒュッテ・ジャベル(8:25)...車山肩(コロボックルヒュッテ)...車山(10:45-11:20)...強清水(13:35)

夜叉神峠からの展望に期待が膨らむ。

タクシーの運転手さんの話では、昨日は、少しだけ雪が降ったとのこと。しかし、南アルプススーパー林道にはほとんど雪がなく、順調に夜叉神峠登山口に到着。

登山口でスパッツや軽アイゼンを付けて出発する。かなり暖かく、最初からヤッケなどは脱ぎ、下着と上着の2枚だけで登り始める。登るにつれて次第に雪が増えてきたが、それでも雪のないところとマダラ模様だった。登山道脇の木々には、芦安中学校の子どもたちが取り付けた真新しい巣箱が設置されていた。犯人はアカゲラだろうか、巣の入口の穴の回りを、無数につついた跡があるものもあった。

斜面をトラバースして、大きく左に右にと登

っていくと、もう峠は間近だ。足下には、ネズミの仲間の足跡がある。木々の間からは奥秩父の金峰山が見える。暖かな冬の日差しを受けて緩やかに登ると、夜叉神峠のコルに飛び出し、目の前に真っ白く陰影のはっきりした農鳥岳が現れた。ここは、高谷山への分岐でもあるが、夜叉神峠小屋まで行った方がはるかに見晴がよいので、高谷山と反対側に登っていく。3分くらいで夜叉神峠に到着する。一気に北岳から農鳥岳までの展望が開け、歓声が聞こえる。雲一つない無風快晴、正面には、北岳、間ノ岳、農鳥岳の白峰三山が聳える、最高の場所で昼食タイムとする。



夜叉神峠にて

Hさんがコーヒーを沸かしてくれる。白銀に輝く白峰三山を眺めながらのコーヒーは最高だ。Hさん、ありがとうございます。

昼食後、集合写真を撮って、高谷山に向かうが、少し体調が思わしくないということで、Mさんは峠で待つという。風がなく、日差しが暖かく大丈夫だと思うが、寒くないようにして待たいていただくことにする。

高谷山へは、トレースがなかった。しかし、動物たちの足跡が、そこに登山道があることを教えてくれる。10センチくらいのラッセルなので、苦にはならず、順調に登っていく。左前方には富士山が頭だけ見せていた。左手には甲府盆地がよく見える。ふり返ると、北岳の右手に白い山が見えていた。双児山かと思ったが、その手前のアサヨ峰だったのではないかと思われる。



峠から見た北岳

樹林に被われた高谷山だが、北岳の方角だけ開けている。誰かが木を切ったのかも知れない。ここでもみんなで写真を撮ってから、下山にかかる。携帯電話で、タクシーの予約を入れたが、すでに朝の運転手さんが向かってきているとのことだった。夜叉神峠でMさんと合流し、登ってきた道を下る。下りは快適だ。全盲のMさんもとても歩きやすいという。ただ、雪が少ないところでは、軽アイゼンがじゃまとなって歩きにくくなる。途中でアイゼンを外し、「頭に載せるとアイゼンカツラ」なんていうバカなことを言いながら、あっという間に下って、夜叉神峠に予定どおりの時間に到着する。



高谷山にて

待っていてくれたタクシーに乗り込み、下界へと下っていく。途中で猿が一頭、道路を横断していった。今年最初の山は、素晴らしい展望を楽しめました。これからも好天に恵まれることを願って、今年も一年、よろしくお願いたします。

コースタイム

夜叉神峠登山口(11:30) ... 夜叉神峠

(12:55-13:30)...高谷山(14:00-14:10)...夜叉神峠(14:25-14:35)...夜叉神峠登山口(15:20)

菜畑山(1月24日)

参加者 会員(障害者6名、健常者11名)

都留市駅からタクシーに乗り、道坂トンネル入口で下車する。今日もすばらしい天気恵まれ、空には雲一つない。周囲の木々では、ヒガラやヤマガラがさえずっていた。雪もほとんどないようだ。

自己紹介のあと、トンネルの左脇を登り始める。小1のS君が、全盲のAさんをお試しサポートしてみる。元気いっぱいのS君は、速いペースでぐんぐん登っていく。前に立って、ブレーキをかけなければならないくらいだ。

木漏れ日の登山道を登っていくと、道坂峠に到着した。今まで見えなかった鳥ノ胸山や加入道山が見えてくる。急な今倉山への登山道を登っていると、西の方角に白い峰が見えてきた。白峰三山かなと思ったが、さらに南部の荒川三山、赤石岳、聖岳だった。さらに登ると、塩見岳も見えてきた。後をふり返ると、御正体山の上に富士山が姿を見せてきた。最高の展望に大満足だった。南アルプスの手前には、三ツ峠山もよく見えている。

急な登りをがんばると、本日の最高峰、今倉山に到着した。この山は、山梨百名山だった。山頂からは、八ヶ岳や金峰山が木々の間から見える。すばらしい青空の下で、昼食タイムとする。今回は節分の鬼のお面を頭に付けたFさんが、いつものお菓子配りをしてくださる。いつも、本当にありがとうございます。

山頂で記念写真を撮ったあとは、唐沢尾根に沿って菜畑山を目指す。そこかしこにイノシシ

が掘ったような穴が空いている。この尾根は、イノシシたちの天国のようだ。ただ、登山道は、ぼこぼこして歩いて歩にくい。



今倉山山頂にて

しばらくアップダウンを繰り返していると、黒斑のある白い大きな犬が現れた。飼い主に捨てられたのだろう。首輪をしたままだ。ただ、アンテナのようなものを付けたもう一つの首輪もしていた。私たちの前になり、後になり、しばらく一緒に歩いていた。



南アルプス南部の聖岳、赤石岳、荒川三山

水喰ノ頭で休憩中も犬は、あっちへ行ったりこっちに来たりを繰り返している。菜畑山の手前で見えなくなったが、1時間近く同行していた。

菜畑山への尾根から振り向くと、お昼を食べた今倉山が見え、その右手には木々の間から北岳が見えてきた。うっすらとだが、甲斐駒ヶ岳も見えている。

日だまりの尾根を歩き、菜畑山に到着すると、



さらにすばらしい展望が待っていてくれた。東側に裾野を引いた富士山がよく見え、山伏峠から山中湖へと通じる道志みちは手に取るように見える。正面には丹沢の加入道山と大室山が堂々とした風格で佇んでいる。遠くには、新宿の高層ビル群も見えていたようだ。

湯の丸高原(2月6日～7日)

参加者 会員(障害者7名、健常者3名)

2月6日

2月1日に降った雪がかなり残っていたようで、小諸から雪景色の中を湯ノ丸高原に向かった。地蔵峠が近づくと、雪がどんどん増えて、タクシーも雪の道を登るようになる。



ロッジについて、昼食をいただく。高速バスが遅れて、遅い昼食になったため、おなかはずこずこだ。おいしいカレーをお代わりしていた

菜畑山からは、急な下りで一気に高度を下げる。S君は、全く疲れを見せず、元気に下りてくる。急な道を20分ほど下ると、テレビの中継塔に到着した。ここからは、そのまま林道に沿って下る。途中でタクシー会社に電話をして、曙橋まで迎えに来てもらう時間を連絡する。予定より1時間近く早くタクシーに乗れそうだ。養鶏場を過ぎ、曙橋に電話で伝えたとおりの16時に到着した。タクシーに分乗し、逆光に浮かぶ富士山を見ながら帰途についた。

コースタイム

道坂トンネル入口(10:05) ... 今倉山(11:35-12:15)...水喰ノ頭(13:20-13:30)...菜畑山(14:15-14:35)...曙橋(16:00)

だく。

外は、時折激しい風が吹く吹雪になっている。池ノ平方面に歩いていっても、寒く厳しいだけなので、昼食後、Kさんの提案で、若い人を中心に雪上訓練を行うことにする。スキー場の脇の斜面を利用して、キックステップによる登行と下降、さらに斜登行を少し練習し、滑り台を作って、滑落停止の練習をする。

Kさんのピッケルを借りて、順番にやってみる。全員、3～5回ほどやってみただろうか？最初よりは、形ができてきたようだ。

とにかく吹雪で寒く、時間も遅いため、30分ほど練習して引き揚げることにする。

ロッジでは、お風呂に入ったあと、いつもの懇親会の始まりだ。Mさんのフルートと、Kさんのギターとの競演で、夜遅くまでみんなで歌を歌った。

2月7日

今朝も、窓の外は、しんしんと雪が降っている。ただ、昨日よりは風が弱そうだ。ロッジで

8時頃から朝食をいただき、湯ノ丸山を行けるところまで行くことで、9時20分に出発した。

昨晚から今朝にかけても30センチは積もっただろうか？ トレースは付いていたが、狭いので、踏み外すと股下まで潜る。

ロッジを出てからは降る雪が細かくなっていたが、湿原では、日が差してきて、これから期待が持てるのではないかと感じた。

弱視のHさんに先頭を代わってもらったが、どうしても時々トレースを外すため、また私が先頭に代わった。ワカンのトレースは、比較的潜らないが、スキーのトレースだと、スノーシューを履いても先頭は30センチほど潜る。なかなか骨の折れるラッセルだ。ワカンでラッセルしていた二人組を追い越し、つつじ平に11時前に到着する。



ここからさらに山頂を目指す、12時を引き返す時間と設定して、行けるところまで行くことにする。ここから上には、スキーのトレースしかなく、30センチほど潜りながら登っていく。

途中から比較的潜らなくなり、登りやすくなってきた。しかし、そのために後の人にとってはペースが上がることになってしまった。そのために疲れる人が出てきたが、時折地吹雪が襲ってきて視界が悪くなるため、全体が離れないようにゆっくりと待ちながら登っていく。

A RさんとKMさんは、途中で引き返すこと

にした。しばらく登っていくと、樹林が切れ始め、山頂がすぐそこに近づいてきた。時間も12時までにはまだ20分ほどある。何とか山頂まで行くことができそうだ。



12時直前に6人が山頂に立つことができた。写真を撮ろうとしたが、先程換えたばかりのカメラの電池がまたなくなり、古いものを温めて入れ直して撮ったが、帰ってきてみたら写っていないかった。

山頂からの展望はなかったものの、とにかく山頂に立てて満足し、早々に下山にかかる。

余裕を持って帰れると思ったが、下りが不慣れな人もいて、以外と時間がかかった。それでも、何とかロッジに14時に着き、おいしい炊き込みご飯のお昼をいただいた。食後にはお汁粉もいただいた。

タクシーに乗車して出発する頃には、完全に晴れ上がり、湯ノ丸山もよく見えていた。槍穂高連峰や正面の八ヶ岳もよく見え、すばらしい天気になった。もう少し天気の回復が早かったらと思うが、帰りの高速バスの車中から、浅間山などをゆっくり見ることができて良かった。

コースタイム

2/6 スキー場横で雪上訓練(15:30-16:30)

2/7 湯ノ丸ロッジ(9:20) ... つつじ平(10:50-11:00) ... 湯ノ丸山(11:55-12:05) ... 湯ノ丸ロッジ(14:00)

南八ヶ岳縦走(2月13日~14日)リーダー養成コース

参加者 会員(健常者5名)

会員外(健常者1名)

2月13日

東京は小雪がちらついていたが、茅野ではわずかだが青空も見えていた。兵庫から来たYさんと合流し、バスに乗って美濃戸口に向かう。山間部に入ってくると、樹氷が美しく、別世界に来たようだ。

美濃戸口で、車できたHさんと合流し、林道を歩きはじめる。美濃戸山荘でうどんなどを食べようと思ったが、営業していなかった。しかたなく、持ってきたもので空腹を満たす。

北沢の林道を歩いていると、時折日も差すようになった。これからの天気期待が高まる。しかし、山道に入ると、小雪が舞うようになり、赤岳鉱泉に着いた頃は、本降りに近い雪となっていた。そのため、ジョウゴ沢に行き、アイスクライミングの練習をするのは止めて、個室でゆっくりすることにした。



赤岳鉱泉の人工氷瀑を登る人

小屋前の人工の氷瀑(アイスクャンディというそうです)は、多くの人たちが登っていた。この氷瀑を登るためには、講習を受けなければならないようだ。

2月14日

4時頃、外に出てみると、星空が広がっていた。小屋の外の温度計は、氷点下12度を指し

ている。

4時半に起床し、昨夜作っておいてもらった弁当を食べる。HさんとYさんには、お湯を沸かしていただき、テルモスを熱い湯で満たすことができた。

ハーネスを付け、アイゼンも付けて、フル装備で出発する。今日付けたばかりの新しい足跡があったが、その足跡は大同心方面に行ったようで、途中からは我々が今日の先頭になった。先日、暖かい日があったせいか、雪はよく締まっている。

ジョウゴ沢を過ぎ、階段の上の急登を終えたところで休憩する。阿弥陀岳や赤岳がよく見える。今日はすばらしい天気恵まれそうだ。ここまでは風もない。

ここから、踏み跡に沿って登っていったが、間違った踏み跡を登ってしまい、本来のルートから左側にずれてしまった。木の梢くらいまで積もった雪の上を乗越し、斜面をトラバースして正しい踏み跡に戻った。後から3人パーティーが追いついてきて、追い越していった。

ずっと日影だったこのコースにも日が当たり始め、硫黄岳の山腹が光り輝き、樹氷も美しく、すばらしい光景が広がってきた。



赤岩の頭を目指して登る

急登をがんばって、赤岩の頭に到着する。北八ヶ岳や、その左手に白馬岳から穂高岳までの北アルプスが広がり、乗鞍岳、御嶽山、中央アルプス、そして南アルプスの北岳、甲斐駒、仙丈岳が広がる。今日は最高の天気だ。しかし、

稜線に出たため、風が強くなってきた。

ほぼ予定どおりの時間に硫黄岳に到着する。山頂で集合写真を撮ろうとしたが、電池がなくなって撮れなくなった。電池を替えてもシャッターが下りない。結局、ここから最後まで、シャッターが下りず、カメラは使えなくなってしまった。



硫黄岳山荘で、行動食を腹に入れ、全員がロープで繋ぎあう。横岳の登りから核心部が始まる。この稜線は、毎度のことながら、強風が吹き荒れている。風をこらえてがんばって進む。横岳が近づき、核心部が始まった。

右側がスッパリ落ちたところを鎖を頼りにトラバースし、トラバースが終わったところで、左に5mほど上がる。夏は、この右手にオサバグサが咲くところだ。上がったところから、さらに梯子を登り、雪稜を登ると、横岳(奥の院)の山頂だ。



ここからしばらくは歩きやすい稜線が続く。赤岳方面から縦走してきた人たちとすれ違う。三叉峰は、左側(東側)を巻いて超える。2つ

目の核心は、右側の下って、斜面をトラバースするところだ。踏み跡が足のヘリ3分の1くらいしかつかない雪の堅さのため、途中から前爪を蹴りこんで、トラバースしてもらう。そして、鎖の見えるところまで下り、今度は、凍ったバンド状の斜面を斜上する。一部、鎖が出ているので、それを利用して登る。

ここをトラバースすると、最後は日ノ岳からの下りがポイントだ。ここを順調に下って、鎖を使ってトラバースし、稜線に戻る。あとは、地蔵の頭を通り過ぎ、展望荘の風下側で昼食とする。展望荘は、営業していたようだ。しかし、アイゼンを外さなければならず、休憩料も払わなければいけない感じだった。

ここから赤岳の登りとなるが、この風が一番強かったようだ。地吹雪が舞い上がって、薄いベールのように見えるくらいだ。雪の急な斜面を強風に注意しながらゆっくりと登る。頂上小屋が間近に見えてくると、急斜面が終わり、肩のようなところになる。ここから一踏ん張り、頂上小屋に到着した。そのまま山頂まで行き、登頂を喜び合う。

山頂は360度の大展望だ。今まで赤岳の裏手になってよく見えなかった権現岳と南アルプスが間近に見える。風は強いものの、すばらしい天気恵まれたことに感謝だ。

予定時間を30分ほど過ぎているため、山頂は早々にあとにする。ここからは、Yさんに先頭で下ってもらう。足下の切れた雪の斜面を下り、赤岳南面の鎖の連続する岩場を下りていく。夏ならここは、足を滑らせてもしりもちをつく程度だが、冬は瞬時に滑落停止をしなければ止まらない雪の斜面だ。慎重に下って、文三郎道への分岐に到着する。文三郎道に入ると、風もなくなり、歩きやすくなる。右上に、赤岳主稜を登る人たちを眺めながら下っていく。

平らになったところでロープを外し、階段を下りていく。途中から、シリセードを楽しみながら、ぐんぐん下る。行者小屋で、ハーネスな

道を外し、南沢の道を下っていく。

美濃戸でバスに遅れると帰れなくなるYさんと別れ、思い思いに林道を下っていく。美濃戸口からは、Hさんの車に乗せていただき、茅野駅に向かった。空はどんよりと曇ってきて、山々は輝きを失ってきた。わずかな好天に恵まれて、無事に登れたことを感謝しつつ、茅野駅前のそば屋さんで、軽く乾杯をした。

三ノ塔(2月21日)

参加者 会員(障害者5名、健常者11名)

三ノ塔への登山口となるヤビツ峠行きのバスが運行を休止しているということで、事前に大山に変更することになっていたが、ここに来て暖かくなり、道路の雪が溶けたということで、ヤビツ峠までバスが運行することになった。そのため、当初の予定に戻し、ヤビツ峠まで行って三ノ塔を目指すことにした。

秦野駅から、丹沢の山々が見えたが、春のように霞がかかって、くっきりというわけにはいかなかった。それでも、好天が期待できる空模様だった。

ヤビツ峠に着いて、自己紹介のあと、車道を歩きはじめる。富士見山荘に着き、軽アイゼンを付ける。ここから雪の山道になる。

それほど急登もなく、順調に登り、林道を横断してさらに登っていく。ふり返ると木々の間から大山が見え始める。雪の山道は、軽アイゼンが小気味よく決まって滑らず快調に登れる。

雪は次第に増えて、木々に付着しているものが増えてきた。木の枝にぶら下がった氷が、おもしろい形をしていて興味を引かれる。樹林の切れたガレ状のところに出ると、後の大山が遮

コースタイム

2/13 美濃戸口(11:35)...美濃戸(12:35-13:00)...
赤岳鉱泉(14:55)

2/14 赤岳鉱泉(05:55)...硫黄岳(8:05-8:10)...横
岳(9:50-10:00) ... 赤岳展望荘
(11:20-11:45)...赤岳(12:25-12:35)...行者
小屋(14:05-14:20)...美濃戸(15:30-15:50)
...美濃戸口(16:35)

るものなくよく見えてくる。パラグライダーで空を舞う人たちもいた。

二ノ塔に着くと、これから向かう三ノ塔が間近に見える。

パラグライダーで舞う人もすぐ近くを飛んでいる。

二ノ塔から少し下って、やせた鞍部を過ぎ、ふり返るとパラグライダーが空に



たくさん舞っていた。15人は確認できたので、それ以上舞っていたのだろう。



雪の花の咲いたきれいな木々を見ながら登っていくと、三ノ塔に飛び出した。今まで見え

なかった塔ノ岳や丹沢山が見えるようになる。ここより低い表尾根の烏尾山には、三角屋根の烏尾山荘がよく目立っていた。ただ、富士山は雲に隠れて見えなかった。



三ノ塔で昼食を取り、集合写真をたつとあとは、三ノ塔尾根を下る。木の枝に雪が付き、雪のトンネルの中に入ったようだ。登山道は、時折段差の大きいところがあるものの、危険なところはほとんどなく、順調に下っていく。

少し下ったところで、ぴーまんさんが先に平坦なところまで下って、お湯を沸かし、ショウガ湯を準備しておいてくださるという。寒さに

凍えている状態なので、とてもありがたい。

標高800mくらいのところで、ぴーまんさんがショウガ湯を振る舞ってくださった。紙コップまで準備してくださり、とてもありがたかった。

熱いショウガ湯に、身も心も温まって、さらに下っていく。途中で軽アイゼンを外す人もいたが、表丹沢林道に出たところで、全員外す。ここからは山道を止めて、荻原林道を気ままに下り、最後に風の吊り橋を渡って、大倉に着いた。到着時間は、当初の三ノ塔の計画通り、16時ちょうどくらいだった。

アイゼンや靴の泥を落とし、バスに乗り込み、渋沢駅に向かった。大倉周辺の紅梅や菜の花が、山の上との違いを物語っているように感じた。

コースタイム

ヤビツ峠(9:50)...富士見山荘(10:10-10:30)...
二ノ塔(11:55-12:05)...三ノ塔(12:25-13:00)...
大倉(16:00)

その他事業報告

臨時総会(1月16日)

八千代市の八千代台公民館で、平成22年度の事業計画を決める臨時総会を開催した。出席は、当日の17名と書面委任42名を含む59名で行われた。(会員外の方1名の参加があり)

一部誤記などのため修正を必要としたが、内容については総会議案書のとおり、議決された。詳細は、臨時総会議事録を参照ください。

自然と親しむ子ども山登り教室映写会(2月27日)八千代市1%支援制度対象事業

今年で2回目となる活動紹介映写会は、「自然と親しむ子ども山登り教室」を中心に、八千代市の1%支援制度対象事業として実施した。

広報やちよ、八千代よみうり、やちよ市民活動センターなどを通じて広報を行い、会員以外の方の参加は、10人でした。会員の知り合いの方の参加が多かったが、今回初めて山仲間アルプを知った方もいた。



上映した内容は、2009年度に実施した第3回目の「自然と親しむ子ども山登り教室」の4回（1回は雨で中止のため）の記録と、「共に楽しむ登山」の越前岳、赤岳、武川岳、高尾山を上映し、2007年から2008年の写真を中心としたスライドショーとした。

また、山仲間アルプの趣旨や事業内容を、そ

して第4回目となる2010年度の「自然と親しむ子ども山登り教室」の募集要項や、子どもたちとの関わりで配慮していることなどをパワーポイントを使って説明した。

会員以外の方にアンケートをお願いし、その結果は、下記の通り。（当日回収分のみ）

1. 映写会の案内がある以前にNPO法人山仲間アルプをご存じでしたか？
 - a. 良く知っていた 3
 - b. 名前だけは知っていた 0
 - c. 全く知らなかった 2

 2. お住まいはどちらですか？
 - a. 八千代市内 3
 - b. 佐倉市 0
 - c. その他千葉県内 1
 - d. その他の県 2

 3. 今回の映写会があることを何で知りましたか？
 - a. 広報やちよ 0
 - b. 八千代よみうり（または佐倉よみうり、北総よみうり） 0
 - c. 八千代市総合生涯学習プラザ内のチラシ 0
 - d. やちよ市民活動センターのホームページ 0
 - e. 知人からの紹介 3
 - f. ホームページ 3
 - g. その他 0

 4. 本日の映写会に参加されて、山仲間アルプの活動内容をご理解いただけましたでしょうか？
 - a. 良く分かった 6
 - b. 何となく分かった 0
 - c. 良く分からなかった 0
- 【理由】(自由記述)
- ・ビデオが分かりやすい。
 - ・子ども山登り教室の様子を見ることができて良かったです。山小屋の様子も見れて良かったです。去年は天気があまりよくなかったなので、今年は期待したいです。
 - ・昨年、息子が参加させていただきました。
 - ・映写してくれたので分かりやすかった。
5. 山仲間アルプの活動をどのようにお感じになりましたか？(自由記述)
 - ・大変素晴らしい活動ですので、今後もよろしくお願いします。ありがとうございました。
 - ・弱視の方達も自然体で参加できていてとても良いと思います。今年もよろしくお願いします。

- ・楽しそうでした。
- ・今年も息子がお世話になります。よろしくお願いします。

各種連絡事項

共に楽しむ登山（富士山）の日程変更のお知らせ

8月28日(土)～29日(日)に予定していた富士山ですが、土曜日の全ての山小屋がすでに満室のため、8月29日(日)～30日(月)に変更しました。

定期総会のご案内

下記の通り定期総会を予定していますので、ぜひ出席をお願いいたします。

1. 日時：5月29日(土) 13時30分～15時
2. 場所：上馬地区会館（変更の可能性あり）
3. 議題：2009年度事業報告及び決算報告、2010年度事業計画について

詳細は、追ってご連絡いたします。

机上講習(子ども登山教室スタッフ養成事業)のお知らせ

4月24日(土) 13時30分から上馬地区会館で、相澤氏に講師となっておられ、子ども登山教室スタッフ養成事業として、救急法や危険予知に関する机上講習会を行います。

この事業は、原則として子ども登山教室のスタッフになっていただく方が対象ですが、机上講習については、それ以外の方もご参加いただけます。ぜひ、この機会にご参加いただき、登山に潜む危険の知識や回避方法、もしもの場合の対処法などを考える機会としてください。

平成22年度も八千代市1%支援制度に支援金を申請します

平成22年度も、八千代市では市民税の1%を市民税を納める人が自分の意志で、支援する団体の事業を決められる1%支援制度を実施する予定です。この制度が実施された場合、当法人では、平成22年度の「自然と親しむ子ども山登り教室」に要する経費を申請します。

市民の方の選択届出は、8月頃になると思いますが、決まりましたら、ぜひご協力をお願いいたします。

会員情報

退会者のお知らせ

12月以降、残念ですが、お二人の方が退会されました。

編集後記

・理事長のつぶやき

八千代市の1%支援制度の対象事業とさせていただいた「自然と親しむ子ども山登り教室映写会」が、無事に終了しました。ご協力いただいたみなさまに、深く感謝申し上げます。「もっとこうの方が良いのでは？」というご意見がありましたら、ぜひお寄せください。できる能力があるかどうかは分かりませんが、できるだけ反映させていって見たいと思います。

とにかく、子どもたちと接していると、とても楽しく、こちらも生き生きとした気持ちになってきます。子どもたちはみんな未熟なのですが、大人もまた完全な人などどこにもいません

し、未熟だといって良いように思います。

子どもたちに「教えてやる」というような上に立った気持ちではなく、子どもたちからいろんなことを学ぼうとする気持ちを持って、共に楽しみ、共に学ぶ気持ちがあれば、大人も子どもも、ハッピーな気持ちになると思います。

「共に楽しむ」は、障害者対健常者の関係だけでなく、健常者同士や障害者同士、そして子どもたちとも、みんな一緒になって作っていくことだと思います。ぜひ、みんなで共に楽しみましょう！

・次回発行予定は、6月です。

参加申し込みやお問い合わせは事務局まで
〒276-0022 千葉県八千代市上高野 1161-1-208
NPO 法人山仲間アルプ事務局 網干 勝
TEL.047-484-8308

障害の有無も、年齢も、男女も関係なく、みんなで山を楽しみたいね。自然は、誰に対しても

